

博士論文の要約

氏 名 謝 春游

論文題目 移民の食事に関する文化人類学的研究
——広島県在住の中国人女性の家庭を事例として——

本研究の目的は、移民が移住先の生活環境で食事をどのようにかたちづくっているかを記述、分析し、移住先での経験や生活形態、社会関係が移民の食事のありかたにどのような影響を与えるのかを明らかにすることである。

移民は、移住先の環境に適応していく中で、衣食住をはじめとする生活様式の様々な変化を経験する。その中で、食事や食習慣は移住前の生活を最も強くとどめるとされる一方で、様々な要因で徐々に変化していくことが指摘され、移民集団の食事の全体的な傾向などが文化人類学や社会学の分野において議論されてきた。これらの研究のアプローチは、主に、1) 摂取する食品の特徴からみた移民の食事、2) 移住先の社会環境における移民の食事、3) トランスナショナルな視点から捉えられる移民の食事、をあげることができる。一方で、生活の中での食事に対する体系的かつ詳細な記述、および移民を取り巻く家族内外の社会関係の視点からみた食事に対する考察は必ずしも十分には行われてこなかった。

本研究では、1990年代以降に来日した広島県在住の育児経験をもつ中国人女性移民を対象とし、彼女たちとその家族の食事を文化人類学的なフィールド調査にもとづき観察、記録、分析する。そして、これまでの研究では十分には議論されてこなかった食事の機会、作り手と食べる者との関係、共食する者の人間関係と実際に食べているものの関係を探究する。

本論文は、研究の目的と問題意識を述べた第1章、広島県およびその周辺に居住している中国人移民の家庭の食事の傾向と実態を示す第2章から第4章、考察の第5章、結論の第6章で構成される。各章の内容は以下の通りである。

第1章では研究の目的、これまでに移民の食事を対象とした研究のアプローチと問題点を示した上で、本研究の視座を提示した。また、広島県を調査地に選定した理由、調査地と調査対象者の概要、調査の概要を述べた。

第2章では、広島在住の中国人女性移民24人の家庭における正月、春節、日常のそれぞれの食事の内容を調べた結果を示し、食事の機会と食べた品目を明らかにするとともに、統計学的手法、すなわち数量化理論Ⅲ類とクラスター分析を用いて、食事の機会と品目からみた移民の食事の特徴を考察した。その結果、配偶者の組み合わせと食事の時期によって分類できる食事の機会には、その食事の品目との間に相関関係があることが明らかとなった。

第3章では、2000年以降に来日して広島県に在住する、子育て期におかれている中国人女性移民3人の経歴に触れたうえで、彼女およびその家族の食事を、平日や休日の食事と行事の時期の食事に分けて述べた。取り上げた3人の中国人女性は、来日前に日本人男性と国際結婚した女性、来日後に日本人男性と国際結婚した女性、来日後に中国人男性と結婚した女性である。これら3人の家庭の食事の実態を通じて、広島県在住の中国人女性移

民の食事が配偶者の出身国・地域、日本での家族・親族関係、本人および配偶者の就労状況、広島県在住の中国人との関わり方によって異なっていたことが分かった。

第4章では、1990年代に来日し、20年以上の滞在経験をもつ子育て終了後の女性移民3人の食事の経験を記述した。具体的には、国際結婚で来日したいずれも50代の2人の女性、中国帰国者の3世として来日した50代の女性を対象とし、国際移住、結婚、育児といった人生の各段階における日常の食事と行事の時期の食事の実態を記述、分析した。これらを通じて、日本在住の中国人女性移民の食事が、移住やライフステージの変化に伴う家族形態の変化、女性のキャリアパス、移住先の社会関係の展開によって、段階的に変化していたことを明らかにした。

第5章では、中国人女性の家庭の食事に関する統計学的手法による分析と民族誌の記述的な分析を踏まえながら、女性移民の食事がどのように移住先でかたちづくられてきたかを、彼女たちの移住先での経験や生活形態、社会関係から考察した。

第6章では、本研究をまとめ、以下の3つの結論を得た。

- 1) 女性移民の配偶者の出身国と食事の時期が、実際の食事の内容を大きく左右する。
- 2) 女性移民が形成する家族関係およびライフステージの変化に伴う家族関係のあり方が、食事に影響を与えている。
- 3) 女性移民の移住先での食事は地域社会の人々とのつながりの中でかたちづくられ、それが移民と地域社会とをつなぐ機能を有する。

女性移民は配偶者の出身国や地域の違いによって、移住先で異なる家族関係を形成していく。ただし家庭では主に女性が夫と子どもの食事を用意し、夫中心であったり子ども中心であったり、あるいは夫と子どもと自身それぞれの食嗜好や健康を同時に考慮していたりと、様々な食事形態が見られる。家族関係において重要なのは、姑との関わり方が移民女性の食事を作るという行為に顕著な影響を与えていたことである。女性移民はその人生の各段階において、子どもの成長や姻族の高齢化、彼女たち自身の就労状況の変化を経験していく。ともに食事を摂る家族の構成、すなわち共食相手の変化は、女性移民のライフステージの変化、および食事作りに対する思惑や実際の食事作りの変化と密接に関わっている。

また、移住先の地域社会において、女性移民たちは中国人の友人や「干媽」と呼ばれる母親的な存在となる日本人女性、日本人の友人や同僚などの人々との間に様々な人間関係を築く。これらの人間関係を通じて、女性移民たちが出身地以外の中国の他の地域や、日本、第三国の食に触れることで、それらを自分たちの食事に取り入れようとする食行動がしばしば見られる。もちろん、女性移民たちは受動的に影響を受けるだけでなく、自分たちの出身地の食を生かした会食や料理教室などの活動に積極的に関わることで、地域社会との紐帯を築くとともに、彼女たち自身の食事を多様化していくという側面もあった。

以上のことから、これら日本在住の中国人女性移民の食事とは、配偶者の出身国と食事の機会に大きく影響されるとともに、ライフステージの変化に伴う自身の就労状況、家族関係のあり方と、地域社会の人々とのつながりの中で複合的、重層的に築かれていくものであると結論づけることができる。特に、女性移民の食事は性別役割分業型社会という日本の社会環境にも影響を受けていた。こうした女性移民たちの食事の実態は、日本社会における女性の生活や日本社会の現実をも映し出す鏡とも言えるであろう。